

階差

数列 $\{a_n\}$ に対して, $b_n = a_{n+1} - a_n$ で定まる数列 $\{b_n\}$ を数列 $\{a_n\}$ の階差数列という。

例

$\{n^2\}$ の階差数列は $\{2n + 3\}$ である。(例は確かめてみたほうがよい。以下同様。)

差分

関数 $f(x)$ と a, h に対して, $f(a + h) - f(a)$ を $f(x)$ の差分という。

例

$f(x) = x^3 - 3x^2 + 4$ とするとき,

$f(x) = x^2(x - 3) + f(3) = (x + 3)(x - 3)^2 + 9(x - 3) + f(3)$ なので, (なんか意味ありげな変形) $f(3 + h) - f(3) = (6 + h)h^2 + 9h$

平均変化率

関数 $f(x)$ と a, b に対して, $\frac{f(b) - f(a)}{b - a}$ を, x が a から b までの $f(x)$ の平均変化率という。

例

$f(x) = x^3 - 3x^2 + 4$ とするとき, $f(3) = 4, f(4) = 20$ である。

x が 3 から 4 までの $f(x)$ の平均変化率は 16 である。

直線の傾き

曲線 $y = f(x)$ と a, b に対して, $A(a, f(a)), B(b, f(b))$ とする。

$\frac{f(b) - f(a)}{b - a}$ は直線 AB の傾きである。

例

曲線 $y = x^3 - 3x^2 + 4$ 上の 2 点 $A(3, 4), B(4, 20)$ と通る直線の傾きは 16 である。

微分係数

関数 $f(x)$ と a に対して,

$x = a$ 付近における, x の増分 Δx と $f(x)$ の増分 $\Delta f(x)$ の比を考える。

Δx を 0 に近づけると、この比の値の極限値を、 $x = a$ における $f(x)$ の微分係数という。しばしば $f'(a)$ とかく。

すなわち、 $\frac{f(a+h) - f(a)}{h}$ において h を 0 に近づけたときの極限値のことである。

極限値における重要な定理

関数 $f(x)$ について、 $x = a$ におけるの値が 存在する と仮定する。

このとき、 $\lim_{x \rightarrow a} f(x) = f(a)$

x を a に近づけると $f(x)$ は $f(a)$ に近づく。

再度確認すると $f(a)$ が 存在する ことは重要な仮定である。

例

$f(x) = x^3 - 3x^2 + 4$ とする。

$$f'(3) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(3+h) - f(3)}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} ((6+h)h + 9) = 9$$

(なんとも意味深な変形)

導関数 微分

関数 $f(x)$ に対して、 x の各点 a と $x = a$ における微分係数 $f'(a)$ の対応を f' とかく。

すなわち、 $f'(x) : a \mapsto f'(a)$ $f'(x)$ を $f(x)$ の導関数という。

f から f' を求めることを $f(x)$ を x で微分するという。

ライプニッツ流には $\frac{d}{dx} f(x)$ とかく。

すなわち、 $\frac{d}{dx} : f(x) \mapsto f'(x)$

$f(x) = x^3 - 3x^2 + 4$ とする。 $f(x)$ の $x = a$ における微分係数 $f'(a)$ を定義にしたがって求めてみる。

$$\begin{aligned} f(x+h) - f(x) &= ((x+h)^3 - 3(x+h)^2 + 4) - (x^3 - 3x^2 + 4) = 3hx^2 + (3h^2 - 6h)x + h^3 - 3h^2 \\ \frac{f(a+h) - f(a)}{h} &= 3a^2 - 6a + 3ha + h^2 - 3h \end{aligned}$$

$$\text{よって、} f'(a) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(a+h) - f(a)}{h} = 3a^2 - 6a$$

別の変形

$f(x)$ を $(x-a)^2$ で割った商を $q(x)$ とすると、

$f(x) = q(x)(x-a)^2 + (3a^2 - 6a)(x-a) + f(a)$ だから、

$f(a+h) - f(a) = q(a+h) \cdot h^2 + (3a^2 - 6a)h$,

$$\frac{f(a+h) - f(a)}{h} = q(a+h) \cdot h + (3a^2 - 6a)$$

$$\text{よって、} f'(a) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(a+h) - f(a)}{h} = 3a^2 - 6a$$

任意の a に対して、 $f'(a) = 3a^2 - 6a$ なので、

導関数としては、 $f'(x) = 3x^2 - 6x$